

「馬場小室山遺跡フォーラム」第64回ワークショップ

【実践！パブリック・アーケオロジー2014】

馬場小室山遺跡を形成した「見沼文化」(人類活動と環境変遷)の追及、そして未来への展望

1. 【地域・学習／学際・連携】: 秩父と見沼合同<3・11 陸中・山田湾文化復興祈念>シンポジウム

【第1部: 11/3(月・祝)】「縄文人は何を考えたか? <<第2回>>—土偶、その表現と祈り—」

- ・土偶の研究法は、先ず山内清男の層位と型式により「土器型式」が発見され、土偶の年代的系統的位相がある程度判明しました。その次に考古学が考えるべきは、天才・坪井正五郎の「コロボックル思考法」を正しく評価することです。そこで坪井の天才ぶりを知る機会として昨年から位置付けてきたテーマが、「縄文人は何を考えたか?」という連続企画であります。
- ・今回のシンポジウムは「コロボックル思考法」を分かり易くノーマライゼーションし、「縄文人にとって土偶とは何か?」、「私たちに土偶とは何か?」というパブリックな問い掛けに応えたいと思います。
- ・斎藤忠さんが後進向けに解説しました「コロボックル思考法」を学習するならば、モースを超えた新しい学問の誕生として学史の位置付けが必要に思います。発表者のレジュメを参考にしつつ、パネル・ディスカッションの構成を組み立て、最終的な当日配布資料を検討します。

2. 【交流・復興／学際・連携】: 【第2部: 11/24(月・祝)】「ようこそ、「山田湾まるごとスクール」へ」

- ・今回は夏のツアーを中止とし、秋のさいたま市における仮想「山田湾まるごとスクール」を企画しました。目玉は山田町出身の自然地理学者・小岩清水さんの講演です。さいたま市の方々にも山田町の現状や山田湾の素晴らしさを共有できる企画として五十嵐聡江さんがリーダーとなり、活動の意義などを紹介します。齋藤友里恵さんの遺跡ガイドもお楽しみ下さい。
- ・「山田湾まるごとスクール」事務局は 9/2-9/4 に山田史談会・川端弘行会長のお見舞いなどに伺いました。交通事故の後遺症に悩まされ、痛みが強く熟睡できない様子にも拘わらず、『山田町史上巻』以前にご自身が収集され、3・11 後に自力レスキューされた考古資料を拝見しました。次回(来年 1 月末か? 今回のワークショップで日程を検討します)の「山田史談会・山田湾まるごとスクール交流会」企画に参加される有志の方々には、是非とも川端弘行コレクションの活用にご支援賜りますように! シンポジウム当日に配布予定の資料集は齋藤瑞穂さんから紹介されます。
- ・「防災・減災考古学」では縄文時代や弥生時代の沿岸地方における地域や拠点集落での「土器型式」の連続性と凋落イベントに注目したモデル構築を進めます。山田湾の中期後半の拠点集落では、「大木 8 b 式」～「大木 10 式」を廃棄した居住施設が目立ちますが、何故か、「大木 8 b 式」と「大木 9 式」の間である所謂「大木 8-9 式」の展開が凋落します。注目しましょう!

3. 【研修・啓発】: 馬場小室山遺跡の「製塩土器」を考えるための夏休み成果発表会

3-1. 霞ヶ浦沿岸神栖市三渡遺跡の「製塩土器」を理解するために—浜辺や河口下流域の「製塩土器」—

- ・鴨志田隼司さんは現在、故和島誠一さんが資源研時代に行い、縄文時代前期海進の海面上昇について一定の成果を得ることになった、現神栖市奥野谷貝塚に関わる文献調査と地質分野のデータ収集と解析を試みております。ご無理をお願いし、研究の進捗状況をご紹介します。

3-2. 下末吉丘陵の「製塩土器」を理解するために—山間地の「製塩土器」は何を意味するか?—

- ・「製塩土器」は古鬼怒湾、奥東京湾周辺に広がり、下末吉丘陵上の横浜市華蔵台遺跡においても多数の出土が注目されています。これは飯能地方の山間地と共通する動向であり、馬場小室山遺跡から視点を山間地へと移行し、「山間地の「製塩土器」」について研究を進めます。
- ・この類比には三陸北部の「製塩土器」出土遺跡が最適であり、「いつやるか、今でしょ!」の掛け声を受け、貝塚を形成しつつ、略完形の「製塩土器」も出土する標高 100m 超の遺跡を探しました。先日、青森県階上町を訪れ、新たな知見を得ましたので、三陸北部の典型例を議論したい。

4. 【連絡】 その他活動連絡・近況・予定など

- ・2013 年からシンポジウム資料については受付で 500 円の実費負担をお願いしています。2014 年も収入は山田町の大浦仮設住宅への「お米サンタ基金」(「山田湾まるごとスクール」事務局)とさせていただきます。

以 上